【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和5年2月21日(2023.2.21)

【国際公開番号】WO2022/202131
【出願番号】特願2022-544429(P2022-544429)
【国際特許分類】
C09D201/00(2006.01)
C09D123/00(2006.01)
C09D 5/02(2006.01)
C09D 7/43(2018.01)
C09D 5/00(2006.01)
B32B 27/00(2006.01)
B32B 37/24(2006.01)
B05D 1/36(2006.01)
B05D 7/24(2006.01)
B05D 7/02(2006.01)
【ＦＩ】
C09D201/00
C09D123/00
C09D 5/02
C09D 7/43
C09D 5/00 D
B32B 27/00 Z
B32B 37/24
B05D 1/36 Z
B05D 7/24 ３０１Ｆ
B05D 7/02

【手続補正書】
【提出日】令和4年7月21日(2022.7.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
水分散型及び／又は水溶性の被膜形成樹脂（Ａ）、及び
軟化温度が８０℃未満かつ塩素化度が２５％以下である、塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）、を含有し、
前記被膜形成樹脂（Ａ）が、リン酸基、スルホン酸基、カルボキシル基、アミノ基、アミド基及びポリオキシアルキレン鎖から選ばれる少なくとも１種の親水性基を有する重合性不飽和モノマーと、疎水性重合性不飽和モノマーと、を共重合成分に含むアクリル樹脂（ａ１）、ポリウレタン樹脂（ａ２）、ポリエステル樹脂（ａ３）並びにポリカーボネート樹脂（ａ４）から選ばれる少なくとも１種を含み、
前記被膜形成樹脂（Ａ）と前記塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）との含有比が、１：９９～９９：１であり、
固形分含有量が、０．５質量％以上１５質量％以下である水性プライマー塗料組成物。
【請求項２】

前記被膜形成樹脂（Ａ）の最低造膜温度が、２５℃以下である請求項１に記載の水性プライマー塗料組成物。
【請求項３】
さらに、粘性調整剤（Ｃ）を含有し、
前記粘性調整剤（Ｃ）が、セルロース系粘性調整剤、ポリアクリル酸系粘性調整剤、及びウレタン会合型粘性調整剤から選ばれる少なくとも１種を含む請求項１又は２記載の水性プライマー塗料組成物。
【請求項４】
さらに、有機溶剤（Ｄ）を含有し、
前記有機溶剤（Ｄ）は、表面張力が２９ｄｙｎ／ｃｍ^{2}以下の有機溶剤（ｄ１）を含む請求項１から３いずれか１項記載の水性プライマー塗料組成物。
【請求項５】
実質的に着色顔料を含まない請求項１から４いずれか１項記載の水性プライマー塗料組成物。
【請求項６】
下記式（１）で表される構造粘性指数ＴＩ値が１．１以上５．０以下である請求項１から５いずれか１項記載の水性プライマー塗料組成物。

ＴＩ値＝Ｖａ／Ｖｂ・・・・・・（１）

式（１）中、Ｖａは、温度２５℃において、回転粘度計によって回転数６回／分にて測定した見掛け粘度（ｍＰａ・ｓｅｃ）であり、Ｖｂは、温度２５℃において、回転粘度計によって回転数６０回／分にて測定した粘度（ｍＰａ・ｓｅｃ）である。
【請求項７】
樹脂部材上に、請求項１から６いずれか１項記載の水性プライマー塗料組成物を塗装してプライマー塗膜（Ｉ）を形成する工程（１）、
前記プライマー塗膜（Ｉ）上に、水性着色ベース塗料組成物を塗装して着色ベース塗膜（ＩＩ）を形成する工程（２）、及び
前記工程（２）で得られた着色ベース塗膜（ＩＩ）上に、水性２液型クリヤ塗料組成物を塗装及び乾燥してクリヤ塗膜（ＩＩＩ）を形成する工程（３）、
を有する複層塗膜形成方法。
【請求項８】
前記工程（１）の後、
前記プライマー塗膜（Ｉ）上に、請求項１から６いずれか１項記載の水性プライマー塗料組成物以外の下塗塗料を塗装し、下塗塗膜（Ｉ－２）を形成する工程を有する請求項７記載の複層塗膜形成方法。
【請求項９】
前記工程（３）における乾燥温度が、５０℃以上７０℃以下である請求項７又は８記載の複層塗膜形成方法。
【請求項１０】
前記プライマー塗膜（Ｉ）の乾燥膜厚が、１μｍ以上８μｍ以下である請求項７から９いずれか１項記載の複層塗膜形成方法。
【請求項１１】
前記樹脂部材が、旧塗膜又は塗装体の損傷部を含む請求項７から１０いずれか１項記載の複層塗膜形成方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明は、水分散型及び／又は水溶性の被膜形成樹脂（Ａ）、及び軟化温度が８０℃未

満かつ塩素化度が２５％以下である、塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）、を含有し、被膜形成樹脂（Ａ）と塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）との含有比が、１：９９～９９：１であり、固形分含有量が、０．５％以上１５％以下である水性プライマー塗料組成物である。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
[水性プライマー塗料組成物]
本発明は、水性プライマー塗料組成物であって、水分散型及び／又は水溶性の被膜形成樹脂（Ａ）、及び軟化温度８０℃未満かつ塩素化度が２５％以下である、塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）、を含有し、被膜形成樹脂（Ａ）と塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）との含有比が、１：９９～９９：１であり、固形分含有量が、０．５質量％以上１５質量％以下である水性プライマー塗料組成物である。
以下、構成成分の詳細について説明する。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１４】
（樹脂（Ａ）と樹脂（Ｂ）との含有比）
本発明の水性プライマー塗料組成物は、樹脂（Ａ）と樹脂（Ｂ）との含有比は、１：９９～９９：１であり、好ましくは、１０：９０～９０：１０であり、より好ましくは、４０：６０～８０：２０である。樹脂（Ａ）と樹脂（Ｂ）との含有比が、上記範囲であると、水性ベース塗料組成物を塗り重ねたときの塗り重ね馴染み性が良好であり、かつ、塗膜硬度に優れかつ高仕上がり外観の複層塗膜が得られる場合があり特に好ましい。

【手続補正５】
【補正対象書類名】要約書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【要約】
本発明は、水分散型及び／又は水溶性の被膜形成樹脂（Ａ）、及び軟化温度８０℃未満かつ塩素化度が２５％以下である、塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）、を含有し、水分散型及び／又は水溶性被膜形成樹脂（Ａ）と塩素化又は非塩素化ポリオレフィン系樹脂（Ｂ）との含有比が、１：９９～９９：１であり、固形分含有量が、０．５％以上１５％以下である水性プライマー塗料組成物である。